

基本練習問題 11-2

<解答>

切削部門費の No. 71 への予定配賦額 : 51,600 円

切削部門費の No. 72 への予定配賦額 : 74,400 円

組立部門費の No. 71 への予定配賦額 : 86,000 円

組立部門費の No. 72 への予定配賦額 : 104,000 円

製造部門費配賦差異を計上する仕訳

(借) 製造部門費配賦差異 400 (貸) 切削部門費 400

(借) 組立部門費 200 (貸) 製造部門費配賦差異 200

※借方と貸方の製造部門費配賦差異を相殺して次のように仕訳してもよい

(借) 組立部門費 200 (貸) 切削部門費 400

製造部門費配賦差異 200

【解説】

資料 1 より切削部門と組立部門の予定配賦率を計算すると次のようになる。

切削部門 : $1,560,000 \text{ 円} \div 2,600 \text{ 時間} = 600 \text{ 円/時}$

組立部門 : $2,250,000 \text{ 円} \div 4,500 \text{ 時間} = 500 \text{ 円/時}$

したがって、予定配賦率に資料 2 の直接作業時間をかけて予定配賦額を計算すると、

切削部門費の No. 71 への予定配賦額 : $600 \times 86 = 51,600 \text{ 円}$

切削部門費の No. 72 への予定配賦額 : $600 \times 124 = 74,400 \text{ 円}$

組立部門費の No. 71 への予定配賦額 : $500 \times 172 = 86,000 \text{ 円}$

組立部門費の No. 72 への予定配賦額 : $500 \times 208 = 104,000 \text{ 円}$

資料 3 より切削部門費と組立部門費の No. 71 及び No. 72 への実際配賦額が分かるので、上記の予定配賦額と比較する。

切削部門費 No. 71 予定配賦額 51,600 < 実際配賦額 52,000 400 円の借方差異

切削部門費 No. 72 予定配賦額 74,400 = 実際配賦額 74,400 差異なし

組立部門費 No. 71 予定配賦額 86,000 > 実際配賦額 85,600 400 円の貸方差異

組立部門費 No. 72 予定配賦額 104,000 < 実際配賦額 104,200 200 円の借方差異

切削部門費は No. 71 が借方差異、No. 72 が差異なしなので、400 円の借方差異となる。組立部門費は No. 71 が貸方差異、No. 72 が借方差異なので差異を相殺すると 200 円の貸方差異となる。